看護師の喫煙実態と職業性ストレスとの関連

塚原ひとみ[1)]　坂口ちか子[2)]　光野由利子[2)]
高木　敦子[2)]　加藤登紀子[2)]　浅田　愛[2)]
松永佳代子[2)]

[1)] 福岡大学附属看護専門学校
[2)] 福岡大学病院看護部

要旨：看護師の喫煙習慣と職業性ストレスの間の関連性を明確にするために，福岡大学病院の看護師・助産師624人を対象に自記式調査用紙を作成し無名で調査した．回収数589人（回答率：94.4%）で，非喫煙者は511人，禁煙者は36人，喫煙者は42人（7.1%）でした．年代別の喫煙率は，20代7.7%，30代6.4%，40～50代6.2%で差はない．タバコ依存度スクリーニングテスト（TDS）5点以上は23人で喫煙者の55%であり，加えてブリンクマン指数200以上を共に満たす喫煙者は2人であり，ニコチン依存のための代替医療の必要性は低い．4つの職業のストレス（仕事の負担，仕事のコントロール，対人関係および仕事への適応性）と喫煙習慣に相関はなかった．喫煙者の半分は，禁煙を考えている．本調査対象の喫煙率7.1%は，平成10年厚生省調査の一般女性の喫煙率は13.4%，2001年日本看護協会喫煙状況調査の女性看護師の喫煙率24.5%より低い．禁煙対策取り組み以前の看護師の喫煙率は明らかではないが，分煙対策は看護師の喫煙率を低下させ等の報告もあり，看護部内の禁煙の活動や1982年以来の喫煙区域の制限は，喫煙率の低下に寄与するかもしれない．本調査結果では喫煙と職業性ストレス要因との関連はないが，喫煙者でストレス内容選択数が少ない．禁煙対策においてストレス要因と関連した禁煙プログラムではなく，喫煙者個々の心理的準備段階に応じた禁煙プログラムを組織的に実践する必要性が示唆された．

キーワード：喫煙，禁煙，ストレス，看護師